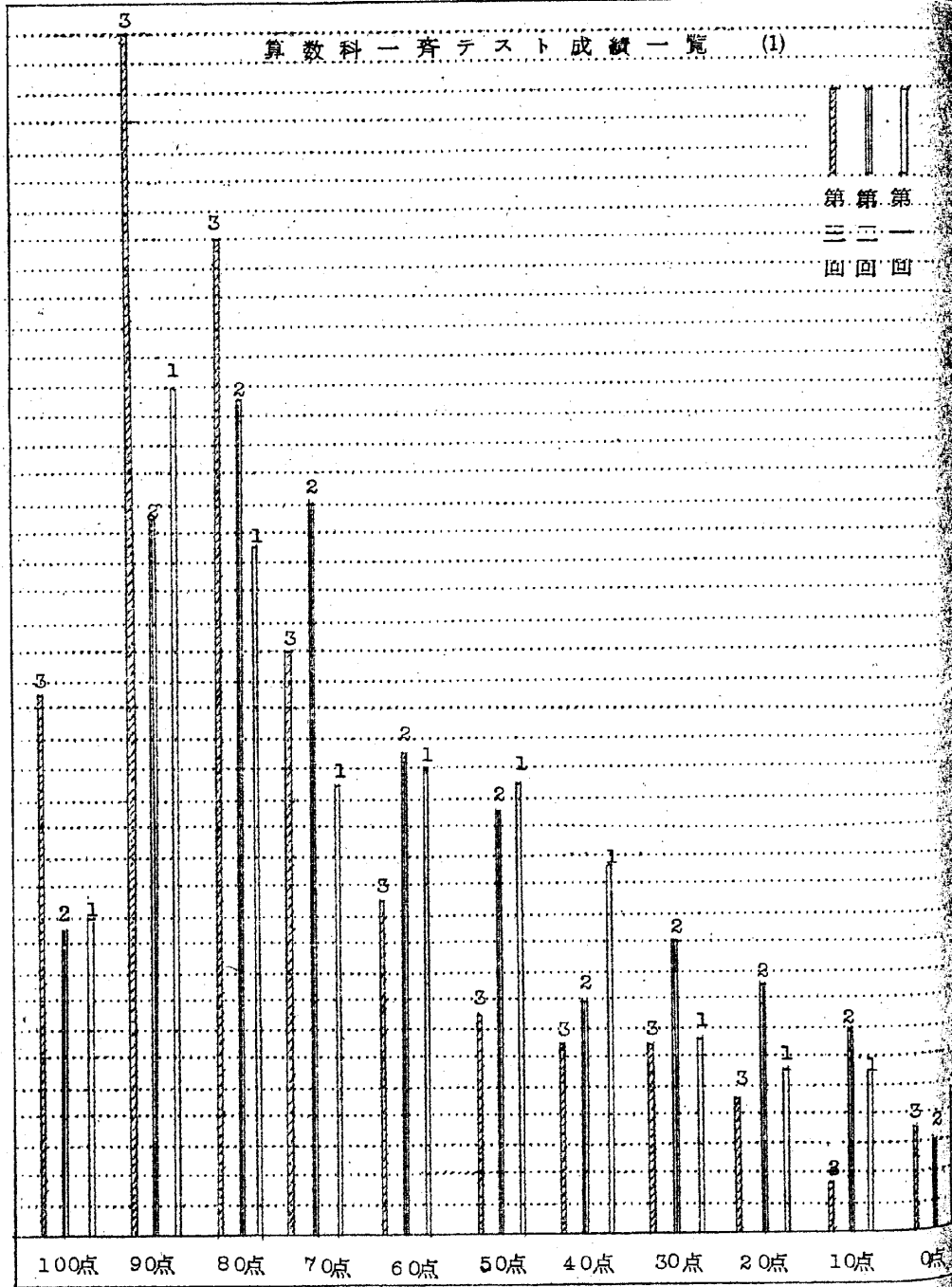


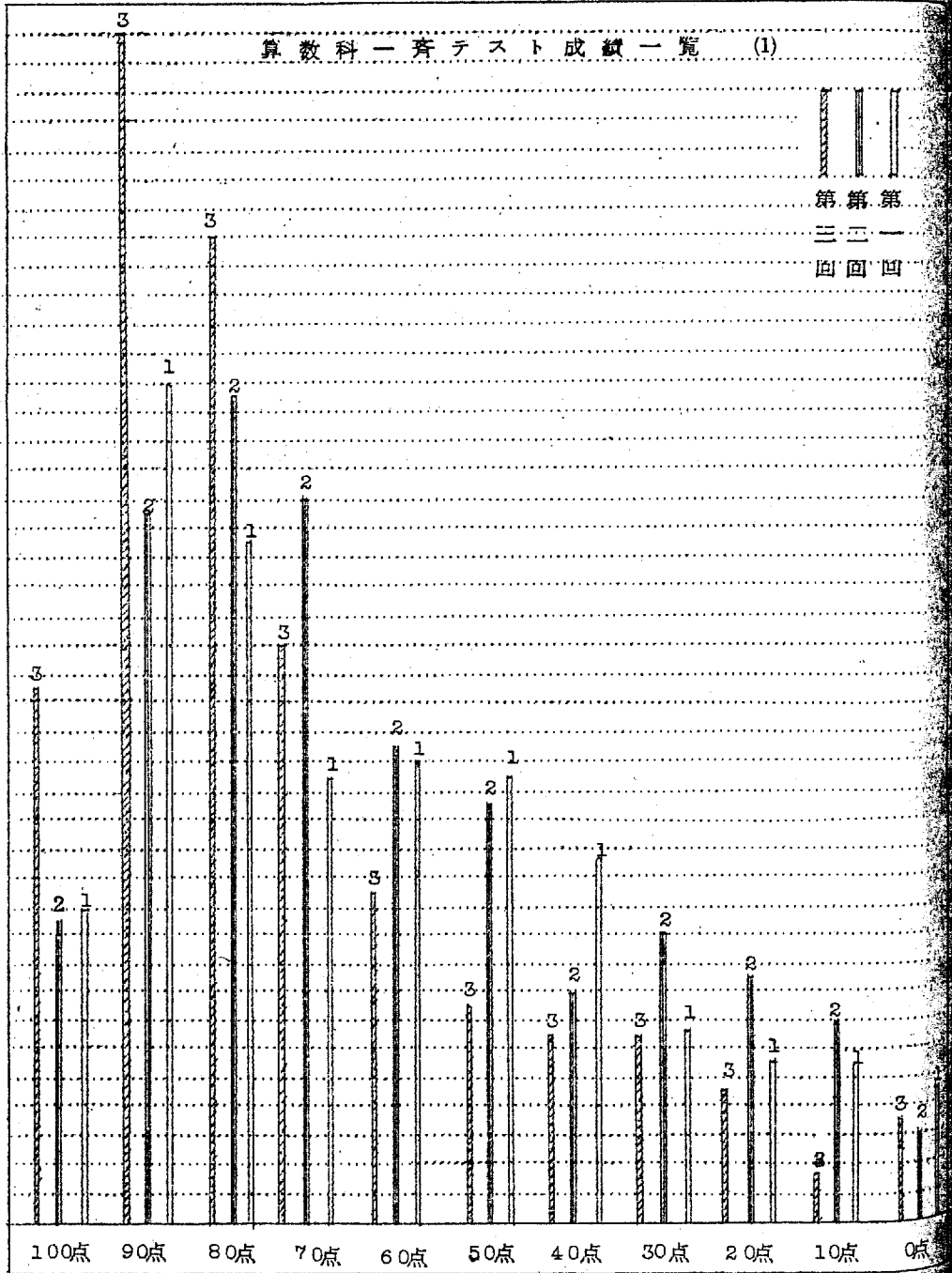
# 小二算数科に於ける 能力別指導の記録

柳原小学校 中村治夫

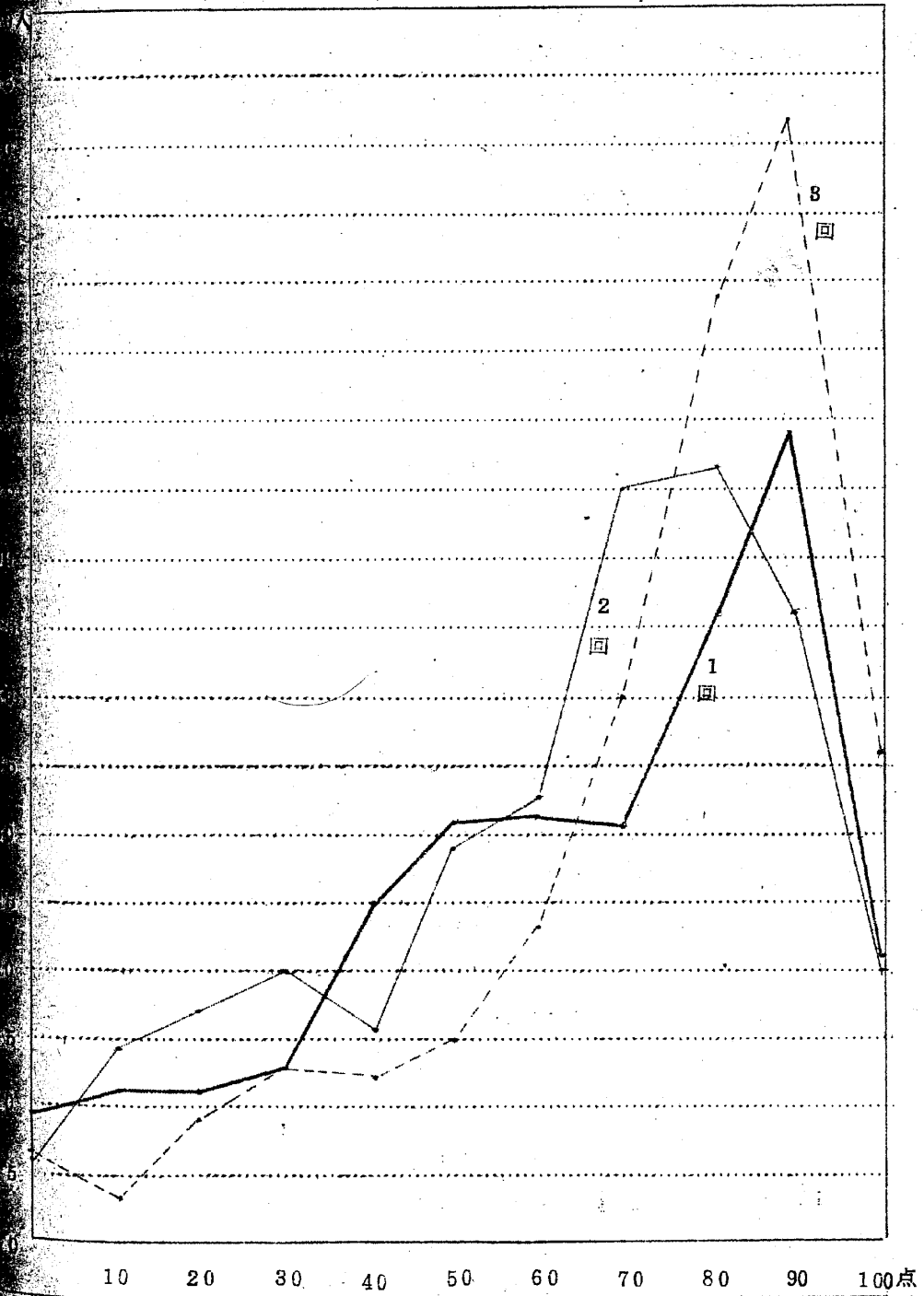


# 小二算数科に於ける 能力別指導の記録

柳原小学校 中村 治夫



一 斉 テ ス ト 成 績 (2)



## 1. 能力別指導実施に至るまで

本校生徒は2年にして既に学力差は極めて大きい、殊に算数科に於ては、はつきり目立つ。この差をこのまゝにしておくならば、学年の進むにつれて益々激しく大きくなり知能の差はそれ程もないのにいわゆるお客機的存在が増加するばかりであることは明かである。そうして彼等が本来的な能力を発揮する頃には殆ど忘れられた子等となつて行くのではないだろうか。こう考えると2年生の内に何とかしてこの差をちりめて3年に進めたい、この努力を3年になつても4年になつても続けたならば心配いを少なくすることが出来るであろう、この努力を我々の力で出来る限りやつて行こう。これが遅延5人の2年担任の一致した考えであつた。

その対策として授業中学級内に於て、その能力に応じた指導が細心の注意を以て行われた。しかし我々の努力は限度があつて学力の進んでいる子も遅れている子も共に十分に活動させ伸びさせることは非常に困難であつた。その為と同程度の遅れた子を放課後に指導して行つた。しかしこれでも会議、出張、事務等で、子等と放課後取組めた日は数える程しかなかつた。

そこで考えられたのが週1回の特活の時間としてあてられている金曜日の第5時限目を全児童の能力別にして指導することとしたのである。

## 2. 能力別グループの編成

第2学期も終りに近い11月14日学年一斉の算数テストを実施しこれを基準にして5クラス編成した。流感のための休業や欠席が多かつたため実施が遅れていたけれど、これ以上待つては本学学期に実施出来なくなるのでやむをえず実施した。

このテストは10月までの教材をあらゆる面からとり入れて問題を作成して見た、その結果は表2つのグラフでわかると思ふが

100点	22名
90点以上 99点まで	58名
80点以上 89点まで	47名
70点以上 79点まで	31名
60点以上 69点まで	32名
50点以上 59点まで	31名
40点以上 49点まで	25名
30点以上 39点まで	13名
20点以上 29点まで	11名
10点以上 19点まで	11名
9点以下	9名

という結果が現れた。これを1組39点以下39名 2組40点以上55点以下で45名 3組

74点以下 76人 4組 75点以上 90点以下 80人 5組 91点以上 62人と云ふ5に  
見て見た。これらの組の児童の能力を概観すると1組の児童は大体2年として指導しなければ  
ないことを全部果すことは到底困難と認められ、2組の児童はゆつくり丁寧に教えればおぼえ  
る可能性がある子が大部分である。更に3組は理解判断等水準前後と思われ、4組は理解力は  
が計算力の劣る即ち計算速度のヤ、欠ける子が多い、5組は理解判断計算力等共に水準以上の  
ある。

上の編成によつて第1期指導が開始された。

### 第1期能力別指導の実際

この期間は11月下旬から12月下旬まで1ヶ月であつた。この間の指導の實際を各組別に記し  
る。

1組、こゝでは基数の加減を実物をつかつて指導した。庭の石、わり箸、指導用大そろばん  
等を用い興味を引きつゝ指導した。時間の終りには必ず基数の加減のテストを行い採点し賞  
与して解散した。皆まるをもらつて笑顔で夫々の教室に帰つて行く姿を見るとこの子たちでも  
等なりに何とかなると云ふ自信を持つた。この子たちは能力こそ低いが無邪気な子が多く夫  
の学級に帰ると担任の先生にその時のテストを見せる。その得意満面の姿ほどの先生も集ると話  
上つた。

2組、2位数に1位数の加減(繰上り繰下りのあるもの)が完全に理解出来るようになる所  
目標をおき、1時間の中、問題数を少くして、その結果を1人1人間違ひを指摘し理解出来るま  
なわせた。その為には1組同様わりばし、おはじき、えんぴつ等の具体物を用いて指導した。  
その効果が次第に現われ、児童達も問題を多く要求するようになって来た。そこで5題、10  
15題と次第に多くして全部出来た児童の数をえグラフに現わした。又正答児童には賞を与え、  
を持つようにした。児童はそのえグラフを見てその中で自分の位置をはつきりつかみ次第に学  
意を持ち進んで学習するようになっていつた。

この指導の反省・劣等感を持つものが出ておと案じたけれど、大体同程度の能力グループのため  
差が余りないので多少の差が出来るだけなのでその心配はなかつた。わずか1ヶ月間であつた  
この程度の問題なら速度を要求することはまだまだ無理であるが大部の児童が理解し計算出来  
うになつた。

3組、指導内容は普通授業の教材とほゞ同程度のものを教材に並行して1位数と2位数の加  
繰上り繰下りのあるもの)をできるだけ数多く与えて見た。時間を切つて何題出来るか競争さ  
す。勿論問題をよく理解させた上で解き方を習得させカード学習も重ねた末時間を要求したわけ  
である。

時間の学習のあと必ず10題テストを行つて問題の児童にとつての難易の傾向や指導を要する

点を反省し次時の指導に備えた。1週に1時間そして1ヶ月の指導期間では余りはつきりした  
は現れないが児童達は同程度能力のグループのためはげみをもって学習した。

(二) 4組 このクラスは時間中そんなにたいくつもしなければあきもしない生徒の集りであつた  
静寂そのものの時間、一斉に向く處、予定の指導案が予定より何と早く終ることか、同じ2年生  
こんなに違いがあるかと驚く程だ。

1時間毎に指導案を変えてやつて見る。世題の程度を上げて見たり、同じ程度の問題を時間  
つてみてやらせたりして深く考える力と早く判断する力を訓練していつた。早く終して普通ク  
の時のよ5にのんびりしようと思つていたので出来たと「ほつ」として周囲を見ると皆大体同  
間に出来上つているので、さわぐ暇さえない。その様な繰返しの中に真剣味も出て来て静かな学  
が出来、理解も進み楽しい学習が出来た。

(三) 5組 このクラスはさすがに全て水準以上であつて、黒板に教材に並行した問題を出すと  
書が終るや殆ど間違を入れず終るものさえいる。普通クラスで毎日余裕しやくしやく学習して  
者たちであるがそうゆゑ者たちが集つて来ると誰1人とてのんびりしたものなく真剣な学習が  
られた。指導の内容は主として文章題の解き方におき更に簡単な文章題の作成を行わせた。又  
を3回加減する方法も訓練した。

この学習による効果は第2回第3回のテストを見れば明白ではつきり伸びていることがわかる  
以上で第1期の指導記録を終る。

#### 4. 第1期指導に當つて父兄の声、児童の声

能力別学習を2回実施してから先ず児童の声を聞いて見た。無記名で能力別学習がよいと思  
の(その理由)いやだと思ふもの(その理由)を調査した。するといやだと云ふ意見のものなし  
よいと思ふもの、理由を上げて見ると次の通りである。

勉強が出来るよになる .....40%  
友達がかわつて新しい気持でやれる .....20%  
先生がやさしくおしえてくれてよくわかる .....20%  
勉強に張りあいがある .....15%  
其の他 .....5%

このような結果が現れたのに対し父兄の声はけんけんごうごうと云う言葉がびつたりする状態  
つた。

まるでこのクラス編成で毎日の授業を進めるかの錯覚を起す人、親戚知り合い同町内同志の見  
らこれに対する種々な非難が聞えてきた。しかし現実に生徒の姿を見ている吾々、この児を何  
したい熱意に燃えている吾々はびくともしなかつた。

12月の父兄参観日には特にこの問題をとり上げて父兄と十分懇談し協力を求めた。父兄も

や心理を理解し賛成してくれ家庭での理解と協力を約束してくれた。

## 第2回一斉テスト及第2期学習グループ編成

1月14日第3学期始まる早々11、2月教材を主とした問題でテストを行った。この結果は別  
2つのグラフを見れば明瞭であるが第1回テストが90点だいが最も多かつたのに反し第2回  
90点から80点だいが多くなつていて平均点はほぼ同じであつた。

した吾々は一寸がつかりしたけれど冬休直后であり本当の實力があらわれたものとあらわれな  
たもののあることを考えた。しかし子供達との約束でこの点数にもとづいて第2回目の能力別学  
習グループ編成し第2期指導が始められた。

この編成で相当の変化があつた。第1期この子がどうしてこの組へ来たのかと思われる子は殆ど  
当所に着着いた。中にはこの子かと思われるよふな成績で2段階とびこえて上のクラスに進ん  
だものもあつた。

これは冬休中の家庭学習の賜と思われる。第1回の時のよふに能力のあると思われるものが極端

に入つたり能力があると思われぬものが上のクラスに入つたりしたのは是正された。

テストは次の通り編成した。

組	29点以下	41名
組	30点以上54点以下	52名
組	55点以上74点以下	70名
組	75点以上89点以下	76名
組	90点以上	68名

テストとも変動はあつたけれど指導方針、指導内容は前期に準じて行ふこととした。

## 第2期能力別指導の実際

第1期は1月中旬より2月中旬までとして指導した。

1組 さすがにこのグループに集まつたメンバーは自分の名前さえも満身に書けぬもの、口  
どきかぬものが多かつた。前回と1番変動の少ないのがこのクラスである。指導はまず数学  
の方からはじめた。指導内容も1年程度に下げて1位数の加減を主とし時には2位数同志のく  
りくり下りのない加減も加えて指導した。この程度の計算練習をカード、割箸、おはじき等を  
用いて指導し、事実問題に導入していつた。事実問題ではお金の問題が身近にある問題と見えて  
はやくあつた。

2組 このグループはなまけものが多い。殆どやれば出来るものをやらずにいてわからなく  
なつてしまい、いつもクラスの中以下を上下しおいてきぼりをくう子たちである。ただけんそうその  
で如何にしてひきつけて授業に入つて行くか苦勞した。

この程度の子の能力の八分で出来ると思われる問題をやらせて見た。すぐやつてしまつた子、

やらずにさわぎ出す子、一生懸命やつて漸く終つた子さまざまである。次に5分で出来る問題を  
して見た。早い早い実に早い、全員5分以内で終つてしまつた、答を合せて見て驚いた、半分以  
間違いが大多数である。そこでゆつくり正しくやるように話し10題やらせて正答数をグラフに  
わして見た、伸びる芽が出はじめた時はうれしかつた。どうやら半数位静かになつて来た。相  
らずの子には話合つて家庭学習をすゝめ一斉時間以外に時間をさいてやつて見た。先生との結び  
きが出来た為か、さわがなくなつて来た。真剣になつて来た。しかしこのクラス其のものの中に  
でに開きが認められる。性格的に粗野で注意散漫で出来ない子、能力的に出来ない子、親が余り手  
とり足をとりにやつて来た子種々様々である。しかしこのクラスはやり甲斐がある。伸びてくる  
と竹の子のようだ、目に見えてくる。毎日先生やつて来たよと一枚一枚もつてくる子、仲のよい  
争相手を見つけて楽しんでやつている、この程度の子を1ヶ年位継続してやつて見たいと思ふ。

(イ) 3、4組 このクラスには前期の5組から下つたものも相当居るけれど大いに励まして教材  
に並行して特に暗算に力を入れてやつて見た。

2位数同志の加減くり上りくり下りのあるものでつまづきもの、速度の違いものは結局1位数の  
加減の暗算力のないものである。そこで1位数の暗算から次第に速度を高めて練習した。時間の  
りには必ず20題テストを実施しそれをのびゆく記録として個人個人の記録用紙に記入させて  
せ大いに励ましとした。

(ロ) 5組 2年生程度の問題なら殆ど完全に近い程理解している。教科書を離れて文章題を取  
つて見た。計算能力もあり早く解答出来るが名称のつけ方がわからず、わかつていてもつけ忘れ  
者が多いので計算能力と一緒にこの点にも充実させようとして指導に当つた。

次に計算練習を速度を目標に実施した。計算方法は理解しているので速度を要求して見たのであ  
正確さはあるが速度のない子、速くはあるが誤りの多い子が見受けられたので、より以上早く正  
に出来るよ5何回もやつて見た。そしてこの組の中の差を少なくして行くよ努力した。しかし1  
1時間の為かその結果ははつきりするまでに至つていない、やはり少い時間でも毎日やつた方が  
効果的ではなかつたかと思ふ。

以上第2期の能力別指導の實際の担当者の感想を交えて記録したのであるが第1期の能力差が  
ないのでやりよいと云ふ感想と違つて第2期は色々の反省ややりづらい点も生じている。しかし  
の各先生方の努力と骨折りは第8回一斉テストに明瞭に現れて担任の5人をよろこばせた。

## 7 第3回一斉テスト

第3回テストは1月教材終了程度として2月上旬実施した。その結果は別紙グラフの様に素  
い好成绩となつて現れ平均は著しく向上した。

この程度の問題が間違ひなく出来れば2年終了者としてはすかしくないのであると思われる問題  
ある。



の結果、伸びるべき子の伸びが目立つた。

1人と1学期やる気もなく只いたずらばかりしていた子で一定時間をその子の為にとつて2、3週間ほどきしてやれば追いつけるなと思いつつそのまま1学期を過ぎてしまった。2学期の能力検査で2組に入った、そしてゆつくり基礎的指導を受け興味をもつて来た結果、時間中いるかわからぬ程静かになり第2回の一斉テストでは4組に編入された。更に第3回のこのテストでクラスで10人の内に入る程になつた。この子の結果から見て手をとつてその子なりの指導が来れば必ずその子なりに伸びるものであると信ずる。

来て来た子はどんどん上の段階に入れ無理だつた子でも51度その子のより出しにもどつてやらせて行くつもりである。そして3年になる迄何とか一応の効果を収めたいと思ふ。

2回のテストを通して見て

前に記したように伸びるべき子はどんどん伸びている。即ち知能の普通以上の子ならその伸びが著しきっている。グラフでも想像出来るように中以上の子が非常に伸びていることが知られよう。しかし問題は最下位の子である、このテスト結果では殆ど伸びが認められない、これはテストの程度がどんどん上つて行くに反してこの子等の伸びが追いつけぬためであると思ふ。基礎的な理解も進みこの子等なりに伸びていると思ふので第1回と同程度の問題でテストを行えば明かに彼等の伸びが認められるであらう。

と　　め

以上幾分の効果を認めてよろこんでいるわけであるが何としても児童が多いこと、時間数の問題が起つている。この方法を反省し更によりよい方法を検討して行くつもりである。

今後は標準学力テストを実施して、更に正確な学力もつかむつもりである。いずれにせよこうゆふがこゝまで進められて来たのは2年担任全員が1人として不平云ふものもなく、一致協力して進めて来た賜で、非常によろこばしく思つている。

この結果、兎角学級王国を作り易い小学校に学年の先生学年の子としての温い交流が出来、ひとりの子だからとて見て見ぬふりをしなくなつたこともよろこばしい現象である。これが発展し、学校の雰囲気になることを望んで筆をおく。

以　上